

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 川越市立芳野中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

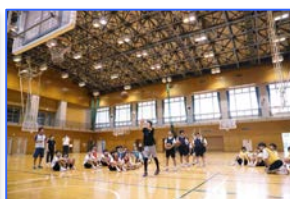
まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年11月5日 (火)

■ク ラ ス : 2年A組 (25名) 、2年B組 (27名)

■オリンピアン : 佐藤 久佳 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・オリンピックを通じて学んだこと、目標に向かってどう取り組んできたのかを2時間を通して皆に伝えていきたい。自分の将来のことをイメージして聞いてもらいたいと話した。オリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、一生懸命頑張る、全力を尽くす、目標に向かって頑張ること」「フレンドシップ＝友情、友達と力を合わせて協力すること」「リスペクト＝尊敬、敬意、尊重、相手を思いやる気持ち」と説明し、これを意識しながら取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。
- ・ダイナミックストレッチを実施。終了後、運動ができなくても自分なりに最後までやり通すことが大切だと伝えた。

3. 主運動



- ・8の字跳び(90秒×3回) を引っかけなくても続きから数えるとして2班毎2チーム対抗で実施。
- ・1回毎に作戦タイムを設け、より多く跳ぶためにどうしたら良いかを話し合う。
- ・A組では最後に男女に分かれて全員跳びを実施。

4. まとめ



- ・目標に向けて失敗をしても諦めず一生懸命取り組むことは、この運動の時間に限らず日常生活の中でも大切なことである。与えられた時間の中で他の人よりも成長し、結果を残すためには、努力すること、相手を思いやり、協力しながら取り組むことが大切である。次の座学の時間ではオリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について、また運動の時間の取り組みについても振り返るので忘れずに教室に戻ってほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・北京大会の映像を見せながら自己紹介し、自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、一生懸命頑張る、目標を持つ、対策を立てる」、「フレンドシップ＝友情、協力、支え、感謝」、「リスペクト＝敬意／尊重、思いやり」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：今後の人生や生活をより良くするため、自分の目標を達成するために何をすべきか、オリンピックバリューを使って考えてみよう。

発表：「自分に合った目標を持ち、対策を考え、自分なりに頑張る」「テストで具体的な目標を立てて、それに向けて努力する」(エクセレンス)

「いつでもどんな時にも周りの人に感謝し支えてもらえるのを当たり前と思わない」「部活の友達と協力し支え合う」「テストで良い点を取るために、わからない所を教え合う」(フレンドシップ)

「尊敬できる人を定め、その人を目指していくことで自分が尊敬されるようにする」「社会に出ても思いやりを忘れない」「仲間の意見を尊重する」(リスペクト)

4. まとめ



・目標を口にするのは恥ずかしいかもしれないが、自分の言葉で気持ちを伝えることで、協力してくれる人や応援してくれる人が増える。目標に向けて一生懸命頑張れた人は、社会に出てからも諦めずに取り組むことができる。中学生である今は失敗を恐れずに頑張り抜く癖、一生懸命取り組む癖をつけておくとよい。胸を張って口にできるような目標を持ち、その目標に向かって進んでいってほしいと伝え、授業終了。